

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 秋田大学教職大学院・大館市教育委員会
コラボ研修プログラム	事業名：ふるさと教育実地研修「地域の教育長が語る『我が町の教育』2023」 ～（大館市教育委員会・花岡地区 他）～
支援事業報告書	研修等名：【NITS・秋田大学教職大学院コラボ研修】 ふるさと教育実地研修「地域の教育長が語る『我が町の教育』2023」 ～（大館市教育委員会花岡地区 他）～
	開催日時：令和5年10月5日～6日 9時～16時 開催場所：大館市立城西小学校・中央公民館・鳥潟会館・世界遺産伊勢堂岱遺跡・花岡地区史跡 他 参加人数（総数）と参加者の属性：30人（教職大学院生25人（現職教員10人）、大学教員5人）

内容：

第1日目

- ① 学校訪問 大館市立城西小学校
 - ・大館型授業の参観・協議、校長からの学校説明
- ② 講話 大館市の教育（高橋善之教育長） 小学校教頭の学校経営説明
 - ・高橋教育長より大館市のキャリア教育と授業について講話
 - ・小学校教頭による小学校の取り組みについての説明後、大館型授業についての質疑応答
- ③ 協議会 教育長・教育監・教頭との協議

第2日目 ○地域教材活用研修（花岡地区：花岡事件史跡、鷹巣地区：世界遺産伊勢堂岱遺跡）

日程：鳥潟会館→花岡事件史跡（5カ所）→伊勢堂岱遺跡（縄文館）→伊勢堂岱遺跡→秋田大学
講師：日中不再戦友好碑をまもる会事務局 富樫他、北秋田市教育委員会 榎本剛

※「ふるさと教育」と「キャリア教育」を融合した教育理念を掲げている大館市の教育を学校及び市教育委員会を訪問し理念や実践について研修した。また、授業を参観し、授業づくり研修を行うとともに教育長から「我が町の教育」についての講話をお願いし、大館市の教育を学び今後の各地の教育での参考とした。

※大館市には戦争遺産があり、それらの歴史教材の活用方法について講師を招いてフィールドワークを実施した。また、世界遺産である伊勢堂岱遺跡を見学、解説を聞き地域教材活用の研修を行った。

成果：

- ・大館市が目指している共感的・協働的な学び合いが展開されていた。このように児童一人一人が互いに活躍し、全員が光り輝くことのできる授業を行い、地域社会で主体的・協働的に生き抜いていくことのできる子どもを育成していく必要があると改めて感じた。（参加者A）
- ・高橋教育長が大切にされている「諦めない限り有効」という言葉が心に響きました。これから先、どんなに困難なことがあっても、諦めずに子ども達のために頑張りたい。（参加者B）
- ・花岡事件は、戦時中中国人や朝鮮人を大館市の山地へ強制連行し、過酷な環境で土木作業に従事させた出来事であることを初めて知った。今回のフィールドワークは、大人の自分であっても心に重く残るものであった。そのため、子どもに教材と示す際には十分な配慮が必要と感じた。（参加者C）
- ・伊勢堂岱遺跡は地域にある世界遺産としてあらためて貴重な遺跡と認識できた。フィールドワークを通じて世界遺産教育について興味をもった。（参加者D）

※以上のような感想を聞くことができ、当初の目的を達成できた。

アイデアや工夫したこと：

- ・優れた教育実践を経験させるため秋田県内の各地の授業を参観させ協議する場を設定した。
- ・各地の特色ある教育を各地の教育長から直接講話をいただき、行政側の想いを伝える場を設定した。
- ・研修にバリエーションをもたせるため1日目は授業参観、学校経営説明・協議、教育長、小・中学校校長、協議会、2日目はフィールドワークをしながらのふるさと教材学習とした。
- ・各地をフィールドワークすることにより、より実践的な教材研究会にした。

<写真・図など>

